

会 議 の 概 要

1 会 議 名 (審議会等名)	令和6年度 宝塚市農業振興会議
2 開 催 日 時	2025年 1月 29日 14時～15時30分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 政策会議室
4 出 席 委 員	三宅康成、福田俊治、田中公丈、金岡昭弘、日野尾康行、堀川京子、中島達也、小西由香利（敬称略） 計8名
5 公開不可・一部不可の場合の理由	—
6 傍 聴 者 数	なし
7 公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
8 議題及び結果の概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶等</p> <p>(1)市挨拶（産業文化部長）</p> <p>(2)委員自己紹介</p> <p>(3)事務局紹介</p> <p>(4)出席委員数の報告 委員8名中8名出席。会議の成立を報告。</p> <p>(5)情報公開について 会議録をホームページに掲載し会議概要を公開することについて確認。傍聴人はなし。</p> <p>3. 議事</p> <p><u>(1)会長及び副会長の選出について</u> 新たな任期となっているため会長及び副会長を選出する必要がある。委員より会長に三宅委員、副会長に中島委員が推薦され、全会一致で承認された。</p> <p><u>(2)第2次宝塚市農業振興計画に係る取組内容</u></p> <p><u>(3)評価指標の進捗状況</u> 議事(1)及び(2)について一括で審議。 令和3年度に策定した「第2次宝塚市農業振興計画」に関して、各事業の取組内容について事務局より説明。説明にあたっては13の基本方針の内、以下の取組に絞って説明。</p>

(1) 基本方針1 次世代の担い手の確保

【1 担い手の確保】

令和5年度の取組内容・今後の展開

- ・県が主催する「就農希望者向けセミナー・相談会」へのブース出展及び、随時の新規就農希望者への相談対応により、新規就農者の発掘に努めた。
- ・パイプハウスを無償で貸与する「新規就農者確保事業」により、本市農業を担う農業者の育成及び確保に取り組んだ。
- ・新規就農者数が増えているが、農地取得の要件が緩和されたことが要因として考えられる。

就農相談件数 令和3年度：26件 令和4年度：24件 令和5年度：24件

新規就農者数 令和3年度：5名 令和4年度：5名 令和5年度：11名

(2) 基本方針2 地域に根づいた園芸(花き・植木)と農業(水稲・野菜・畜産)の推進

【3 特色ある農畜産物生産の促進】

令和5年度の取組内容・今後の展開

- ・「宝塚市ダリア生産拡大推進事業補助金」にて、ダリアサポーター9名の受入・技術指導に係る経費を補助(うち補助要件を満たすサポーターは6名。うち、2名がダリア産業への新規参入に至る。)し、令和4年度と比較して約20a分の作付面積の増加に寄与した。
- ・国の交付金である経営所得安定対策等交付金において黒枝豆や太ネギ、ダリアといった特産品への加算や、地場産業である花き・植木への加算を設定し、生産の促進に取り組んだ。水田から畑作物への転換の本格化を図る畑地化促進事業にも令和5年度より取り組んだほか、国の地方創生臨時交付金を活用した「農業物価高騰対策支援金」及び「畜産飼料価格高騰対策支援金」を創出し、農業経営の安定を支援した。

畑地化促進事業 採択人数：61名 採択面積：105,741㎡

(3) 基本方針4 有害鳥獣による農作物被害の防止

【1 地域と連携した有害鳥獣被害防止対策】

令和5年度の取組内容・今後の展開

- ・農作物被害のアンケート調査を実施し、有害鳥獣侵入防止のためのワイヤーメッシュ柵や電気柵の有効な導入を支援した。

地域住民が主体的に被害対策を検討するための研修会を実施した。

(研修会開催1回 5集落23名参加)

導入実績 ワイヤーメッシュ柵：10,068m 電気柵：286m

(4) 基本方針9 新技術の導入の推進

【1 スマート農業の導入検討】

令和5年度の取組内容・今後の展開

- ・ドローン等を使った薬剤散布を実施している事例があり、省力化が図られている。

(5) 基本方針12 「花き・植木」に触れ、知る機会の創出

【1 接木技術の周知及び花き・植木の魅力の発信】

令和5年度の取組内容・今後の展開

- ・植木まつりを2回開催した。
- ・あいあいパークが行う市内小中学生等を対象とした山本地区の歴史学習会及び接ぎ木講習会について、5回開催した。
- ・市内の緑化団体（64団体）に369球のダリア球根の配布を行った。今後も市花ダリアが市内外を問わず多くの方に認知してもらえるようダリアの普及啓発に取り組む。
- ・市立長谷牡丹園は、令和5年4月22日から令和5年5月21日まで開園し、入園者は4,854名だった。牡丹園の魅力向上を図り、来園者数の増を目指す。
- ・明治34年（1901年）5月に宝塚市山本地区で作成された当時の牡丹品種カタログが松江市八束町（大根島）で見つかり、令和6年度に本市へ提供された。

評価指標の進捗状況について以下の点に絞って事務局より説明。

③有害鳥獣による農作物被害額

令和2年度の作成時は4,140千円だったが、令和5年度の現状値は3,120千円となっている。目標を達成しているが被害は引き続きあるため、防除柵の設置は実施している。

⑨市民農園利用者数

令和4年度の現状値は542人だったが、令和5年度の現状値は581人と40人ほど増えている。民間で市民農園を運営する会社が参入し1農園増加した。

《委員からの主な意見とやりとり》

【新規就農・移住について】

（委員）

担い手や新規就農者というのは大切な話で、宝塚に限らず全県的に悩んでいるところはあると思うが、増えているのでいいことだと思う。農地取得の要件が緩和されたことが要因かという話があった。ダリアサポーターも新規就農者の数に入っているのか。

（事務局）

ダリアサポーターは新規就農者数に入っていない。

（委員）

南部から来ているダリアサポーターではなく、10年以上パートで来ていた人が新規参入でダリアを作るようになった。

南部からダリアサポーターで申し込んだ人は仕事もしているため、ダリアの仕事の都合に合わせては来てくれない。自身の休みとダリアの作業日がたまたま合えば来るという形で、サポーターの給付に見合うような働きはしてもらえない。難しいことを教えられず、ダリアの生産の肝心なところの手伝いはお願いできなかった。

新規参入した2人は、昔から手伝いはしていて、非農家だったが農地を借りて始めた人と、結婚して来た女性で、手伝いをしながら勉強しやってみるとい人。

（委員）

新規就農者11名の内訳はどんな感じか。若い人が多いのか、市外から来た人が多いのか。

（事務局）

年齢的には幅広い。農業の世界では若い世代の人もいるので良い傾向と思う。市内の人が多。

(委員)

令和 6 年度の新規就農者数は好調か。

(事務局)

記載している 3 年間（令和 3 年度～5 年度）は相談件数が多かった。担当者の印象だが、コロナ禍や不景気によるところがあったと思う。令和 6 年度に入ってから相談件数は半分以下になっている。景気が上向きになっていることの現れかもしれない。

(委員)

たしかに、全県的にコロナの間に相談件数はとても増えた。ただ、実際に就農に結び付いたかというところではなかった。令和 5 年度の新規就農者数がとても増えていたため、いい傾向にあるのであれば勢い込んで取り組むと良いと思った。

(委員)

市でダリアサポーターの制度を作ってくれているが、実働に合わず、ダリアの生産者を新規で見つけるという意味では活用しにくかったため、県の就農セミナーに佐曽利園芸組合から数名で行き、見学をした。すると、兵庫県の農業に関わりたと思っている若い人がとても多いことに驚いた。また、様々な地域のブースが出ていたが、力を入れている地域とそうでない地域で差があると感じた。

加東市の農政課から熱心に声をかけられ、ブースを出すことになった経緯を詳しく聞いた。加東市では、山田錦を代々作っている農家に対し「困りごとがあったらいつでも相談してください」と窓口を広げていたが特に相談がなかったため、順調にしていると思っていた。しかし、突然やめる相談に来る人が増えたため実情を調べると、跡取りがおらず、高齢になり続けられないのでやめると。農家の実情に役所として全く気付いてなかった。これは大変だということで、農地を減らさないためにも担い手を確保しようとブースを出したようだ。農業をしに来る人には生活面でこんな手助けがあるという資料もくれた。

その後、県の HP で神戸のゆり部会の担い手を探すための就農プランの資料を見つけ、佐曽利園芸組合でも作れたらという話をした。就農プランを作って積極的に担い手を探さないと、待っているだけでは見つからないと思う。園芸組合から、ダリアの産業をアピールすることも大事だし、就農セミナーのような場所に足を運んで、ダリアの仕事を紹介していくことも大事。今春の県のセミナーでブースを出そうと奮闘している。

(委員)

担い手の確保はどこの地域もしているため、努力をしているところとそうでないところにこれから差が出てくるというのは考えられる。

(事務局)

北部地域の人口が減ってきている中で、北部振興企画課とまちづくり協議会で空き家対策を進めており、空き家ツアーをしている。多くの希望者からは「小さい畑をしたい」、「蕎麦屋等の料理屋さんや喫茶店をしたい」という要望が多い。ただ、そういう人が思い描いているのは、昔ながらの古民家で、井戸があって、土間があってというのが多いが、実際は、希望に合った家が出ていないのが現状としてある。北部地域は市街化調整区域ではあるが、一部開発されているところもあり、空き家に出ている家はほとんどがそういうところの家。希望者の思い描いているものと受け皿が条件的に合わない。

(委員)

西谷の家は昔からの家で、蔵や納屋など付属品が多いので、新しく来て農業を始めた

いというときに、そのような家を買おうという気にならないと思う。

(事務局)

そのような家もある。住むために家を直して浄化槽を整備してとなると、かなりの金額になるという問題もある。

(委員)

玉瀬の営農組合に入っていた方が亡くなり、田んぼが空いていたが、去年家と一緒に売れた。その新しく来た人に営農組合に入ってやってほしいと説明したら入ってくれ、営農組合の方針に沿ってやってくれるということでよかった。今はまだ自分たちが頑張っているが、もう少し先を見ると、必ず新規就農者が必要になる。営農組合で地域計画を作ったが、その中にも「できなくなったら新規就農者に」と書いているように、集落だけでは農地の面倒を見切れない。

(委員)

営農組合に入った人は何歳くらいか。

(委員)

50代半ばくらい。30歳とかではないが、若い。

(委員)

30代は生活基盤のベースを作る途中の世代なので、財産を持って生活拠点を移すという形はなかなか難しい。新しく来た人は50歳くらいだと、ある程度蓄財もしてというところだと思う。そういう意味ではまだまだ若い。移住促進をどの層をターゲットにするのか戦略的に考えないといけない。やみくもに若い人と考えていても合わないから難しい。

【市民農園経験者の新規就農について】

(委員)

市民農園経験者で、リモートで仕事ができるから一方で農業もできると、半農半Xのように通いで西谷に来て農地を取得し出荷も始めた人がここ数年で数人出ている。市民農園を最初のきっかけづくりとして関わっている生産組合もあり、そこから農業を始めて収穫祭の品評会で賞を受賞した人もいる。しっかり指導をしてもらいながら定住まで目指したいという人も出てきているので、市民農園をきっかけにというやり方も一つだと思う。

ただ、西谷は小さい農地が多く、今後大規模化に向けて次の圃場整備で農地の大規模化や集約化を進めていくときには、ため池や水路の関係も先を見据えて投資していく必要があると思っている。若い担い手もいるが、大きい圃場で効率的にやりたいとか、最近ではドローンを使うとかもある。効率化していかないと担い手も育たないし来てくれないので、受け皿づくりを先にしておく必要があるかと思う。

(委員)

市民農園はニーズに合わせて提供数は足りているのか。

(事務局)

市民農園は毎年空き区画は出るが、募集には2倍近い申し込みが来る。入りたくても入れない現状がある。

(委員)

岐阜市で市民農園を研究したことがある。遠くまで行くのは負担になるので近場でや

りたいと思っても、街中の農地は市民農園として提供していないため、身近なところで野菜作りをしたいという本当に必要なニーズは満たされておらず、2 kmや3 km遠いところに通っているが、距離により満足度が下がっているという研究結果が出た。日本では土地は私有が前提なので、相続で市民農園をやめてしまうこともあるため、必要なところに安定的に市民農園を開設していくことが、市民農園利用者から就農に向かう人を増やすのに繋がるのではないかと思う。そういう意味で、もう少し市民農園を計画的に増やすことができないかと常々思っている。

(委員)

市街化区域では宅地の間に農地があり、市民農園化しようと思っても駐車場がない。西谷では道路に止めておいて邪魔になりそうなときは少し動かせばよいが、市街地では農作業をしている間車を置いておく駐車場がないため困る。コインパーキングがあればよいが、それもない。

(委員)

岐阜市では高齢者農園というのを40何個作っていた。車で行ける高齢者もいるが、身近な街中で農業をしたい人のニーズには応えられておらず、郊外に行ける人しか使っていなかった。車がないと行けないことがネックだったが、この問題は全然変わっていないため、工夫が必要なように思う。

【植木産業について】

(委員)

植木の生産について、植木を作っても売れるのは8割か9割である。残った木の地上部はクリーンセンターで処分できるが、根っこは持っていく場所がなくて困る。仕方がないから土を落として乾かしておいて、西谷や猪名川に持って行って燃やしている。市街地では燃やせず、ネックになっている。今までは2mや3mの大きい木は作れば作るほど売れていたが、(今は残った木の処分がネックで) 体力的にもしんどくなってきたため、ポットのものに変えていっている。山本の生産者は作るものを変えていってしまった状況にある。福岡や名古屋のほうで作っている大きい木を買うと運賃が高いからこっちで買うというので3本や5本なら注文は来るが、100本や150本の注文は来ない。

【市民農園について】

(委員)

市民農園10農園の南部と北部の分布はどんな感じか。また、評価指標の進捗について集落営農組織数が令和2年度から令和5年度まで変わっていない状況で、目標は令和12年度に10組織となっているが、宝塚市で地域計画の作成とかにも入っている中で、組織数が増える見込みはあるか。

(事務局)

集落営農組織数の目標値は西谷の全集落数の10組織を掲げている。宝塚市の地域計画の策定状況は、令和7年3月末で対象の10集落は全て策定する予定となっているが、それが集落営農組織につながるという見通しは立っていない。

市民農園は市内合計で21箇所あり、そのうちの10箇所が市で定期的に募集を行い、それ以外の11箇所は外部の団体が管理している。合計21箇所のうちの3箇所が北部

地域にあり、残りが南部にある。市で募集をしている北部地域の農園は1箇所。

(委員)

北部の農園も利用が埋まっているということか。

(事務局)

北部の農園も埋まっている。コロナ前は100%ではなかったが、コロナ禍くらいから募集枠が急に埋まるようになり、今はそのまま全区画が利用されている状態。北部は車では行けないと諦めている人が多かったが、埋まるようになったというのがこの5年くらいの傾向としてある。

(委員)

21農園全体で区画数はどれくらいあるのか。

(委員)

令和6年3月末現在で661区画となっている。

(委員)

令和12年の目標800人というのは、新しい市民農園を作らないと達成できない数字である。

(事務局)

都市農業をしている人が農業をやめ、遊休農地になるのを防止するためにどうしようかと相談があったときに、市民農園にするという選択肢も提案するが、それぞれの事情もあると思うがなかなか所有者が首を縦に振ってくれないという実態がある。市としては相談があった際には働きかけをしているというところ。

(委員)

京都のほうで市民農園を会社組織でやっているところがある。そこでは市民農園よりも儲けがあるとチラッと聞いた。

(委員)

若い人が起業して、ニーズの高いところ、街に近いところ等収益が上がるような場所で、指導を綿密にやるなどかなり手厚い仕組みを作り、企業として利益が出るように運営している。マイファームと同じようにシェア畑という会社も広がった。農地法も緩くなって民間でも市民農園を開設できるようになっているから、若い人の起業先として農地の活用(のための市民農園)というのは街中だとできる。宝塚市も街なので可能性はなくなはないと思っている。

【空き家と移住者について】

(委員)

担い手と空き家と手つかずになる田んぼの問題で、同じ西谷の中でも玉瀬と上佐曾利では10年くらい差があるように感じている。結婚しても実家を出ないで残っている若い世代が、玉瀬は40代が結構いるが上佐曾利は50代60代ばかり。同じ西谷の地域でも差がある。今頑張っている世代ができなくなると、一気にしんどくなると思う。地域を出た息子や娘も帰ってくるかわからないし、空き家になるしかないと考えている人もたくさんいる。

空き家バンクの話もあるが地域の人あまり知らない様子である。自分たちよりも少し上の年代の人は老人会の会員のため、空き家バンクの話を老人会の集会で詳しく話をすると、後日家族が集まったときに、どうしようか、子どもが帰ってこないならこうい

うことも頭に入れておいたほうがいいかもしれないと話題に出せる。

西谷で農業をしようと思うと、地域に住んで田畑の管理もするというのがセットになると思うので、30代とかの働き盛りの若い世代に来てもらおうと思うと、教育の問題や交通の問題の他、西谷から通って仕事をしながら農業ができるのか、あるいは農業一本でいけるのか、農業一本にした場合には、ある程度力がつくまで市や県からどれくらいの補助があるのかが大事になってくると思う。宝塚市も面積の2/3が西谷ということも念頭に入れて、本腰を入れて考えてほしい。この10年くらいが勝負だと思う。

(委員)

情報が少ないから、どういう未来が描けるのかというのがわからない。それぞれの部署で持っている情報が統合されておらず、先が見通せない。自分も農家で空き家も抱えているが、どうしたらよいかわからない。自分の専門が農村計画なので、何でも知っていると思われるが、実際は何も知らなくて、役場に行っても埒が明かず、情報が全然足りていない。

空き家や空き家に付随した農地をどういう風に活用できるのか。建物だけで借りたい人、農地つきのところで農業を本格的にやりたいという人等いろんなパターンがあるので、できるだけパターンごとにわかるように、必要な人に一括で情報を提供できるとよい。

(委員)

神戸のゆり部会で実際に新規参入した人、JA、県職員に話を聞きに行った話では、新規の人は高校の教師をやめてゆりを作るようになった、思うような家がなく、通いで農業をしていると。就農プランができた経緯としては、ゆりを作りたい人が最初は宝塚で農業をしていたが、淡河のゆりの方がいいということで、そちらでプランを作って就農することになったと。

神戸は就農するための支援が手厚いし、農業委員さんから国から借りられるお金のこと等を詳しく教えてもらったり、書類や窓口のことも教えてもらったりしたという話を聞いてきた。宝塚市でも農業委員さんに相談したらいいのかと、身近な人に聞いたら「僕は違う」というように言われた。

【スマート農業について】

(委員)

国でスマート農業という言葉がよく言われている。水稻の防除はJAのヘリで以前からお世話になっていたが、3年か4年くらい前にドローンを使っている人と知り合う機会があり、JAさんには申し訳なく思いながらドローンに切り替えた。水稻の防除も、玉瀬営農組合で1町くらい作っている黒豆の防除や肥料やりもドローンでできるので、全部ドローンでやっている。

米を作るのに大きく分けると3つか4つくらい作業があり、その中で一番しんどいのは田植えだと思うのだが、これを何とかできないかと思い、苗を作らずドローンを使って直播きしようと考えた。直播きは全国でも増えてきており、ドローンの会社の人と相談して、営農組合の了解も得ながら、去年の春から1反もないくらいの田んぼでやってみた。

直播きにも2種類あり、湿式と乾式がある。今増えてきているのは乾式で、水を使わず雨水だけでというのが名古屋以北や鳥取で増えている。今年乾式の方で鳥取に見学に

行ける機会があれば行こうと思っている。

去年自分は湿式でやったが上手く作れて、前年の田植え機で苗を植えたのと収穫量は変わらなかった。費用的にもあまり差はなく、どちらかというドローンの方が少し安いのではないかと思う。去年上手くいったので今年は去年の4倍くらいの田んぼに増やして、3反くらいの面積をドローンでやってみようと思っている。そうして営農組合が全部の農地でやりだして、できれば西谷全体に広げて行って、宝塚でやっているとなれば阪神間にもどんどん広がっていくのではないかと思う。田植え機もいらなくなるものすごく労力の削減になる。

直播きについて、県内では加西の方でやっている。去年の4月に実演をやるということで見学に行った。ドローンが田んぼの形を覚えているから順番に蒔いていき、5反の田んぼ2枚で1町の面積があるのに10分ほどで終わった。

自分が実際に直播きでやってみて草が心配だったが、いい除草剤があり草もそんなに困らなかった。

(委員)

加西の玉野営農組合は家が近く車でよく通るが、あそこは機械も大きい。

(委員)

水も全部自動になっている。田んぼの水がある程度なくなるとバルブが勝手に開いて入り、ある程度たまると水が止まる。そのような先進的なところである。

(委員)

加西市の中でも先進的な営農組合で、そのようなところはまだまだ珍しい。大多数のところは一生懸命田植えをしている。県はスマート農業の情報を持っているのか。

(委員)

持っている。どの地域でやっているとか、湿式では草がある程度抑えられるが、乾式ではどうなるかとか。

(委員)

乾式で直播きをするところも増えてきているから、(草に関して)何かいい方法があると思う。

(委員)

直播きをして獣害はないのか。

(委員)

播種の前に3種類くらいの薬につけてコーティングするので獣害はない。鳥が食べないためのコーティング、土の中に入っていくためのコーティング等がある。

(委員)

ドローンの使用について、JAでは集落営農で試験的にやっているところはある。最近ドローンが安くなってきていることもあり、大規模な担い手は個人で買っている。集落営農で買ってオペレーターの免許も取ってというのも一つの方法かと思う。

(委員)

そのような農業に移行していけば新規就農してくれる人も増えるかもしれない。ゲーム感覚で農業ができる。そういうキャッチフレーズも良い。

【万博と関連したPRについて】

(委員)

万博が開催されるが、地産地消の PR も含めて市として関わっていく計画はあるか。
(事務局)

観光部局で考えているのは、「万博会場から一番近い温泉地」、「駅から歩いて 5 分で旅館がある」等。あまりにも規模が大きく単独で動くのは難しいので、県の阪神の中のひとつとして参画するというのが現状。

(委員)

直接万博の中だけでなく、宿泊とかで宝塚に来る外国人とかもかなり増えると思う。

(事務局)

県でフィールドパビリオンをしており、宝塚市はその中で手塚と西谷の自然をキーワードにしている。その中で植木や北部の自然を PR できるかと思う。

4. 閉会

(会長)

本日の議題は全て終了した。これにて閉会とする。